



FUJI SABO通信

ふじあざみ

発行
国土交通省中部地方整備局
富士砂防工事事務所
富士宮市三園平1100
電話0544(27)5221
<http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

ダンプトラック

56,000台分の土砂を全力をあげて除石中!

引き続き地域の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いします。



▲第7床固工における除石状況——振り分け 養浜材、道路改良等で利用しました。

昨年、平成12年11月21日に、大沢川で大規模な土石流が発生しましたが、大沢遊砂地で28万立方メートルが堆積し、下流の災害を未然に防ぐことができました。

ダンプトラック約5万6千台分にあたる大量の土砂を取り除き、次に発生する土石流に備える緊急除石工事に全力をあげ取り組んできましたが、年内に完了する見込みです。

掘削した土砂は良質の盛土材として養浜材、道路改良等基盤材として、有効に活用され街づくり、省資源、コスト縮減に役立っています。

CONTENTS

大規模土石流発生から一周年
大沢川扇状地の緊急除石工事の報告
土石流の動態観測や調査から土石流の謎が明らかに
ここで役だっています。扇状地の掘削土砂!!

今夏(イベント報告)
大沢扇状地クイズウォーク
キャンプ砂防 2001in 富士山
三浦雄一郎さんと富士山御中道を歩く

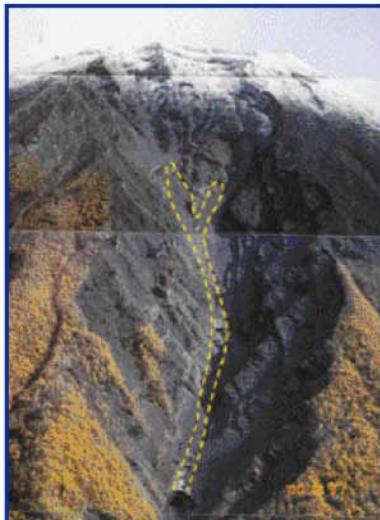
富士山を見て、学び、体で感じる
総合学習・技術研修のため来訪者続々
連携して工事の安全につとめる!
静岡森林管理署との合同安全パトロール
——標高2,200mの工事現場

第6回富士山への手紙・絵コンクール受賞作品紹介
富士山立体地図製作
青木 玉さんの新刊に「富士砂防」登場
富士山火山防災シンポジウム開催のお知らせ
第6回富士山への手紙・絵コンクール表彰式のお知らせ



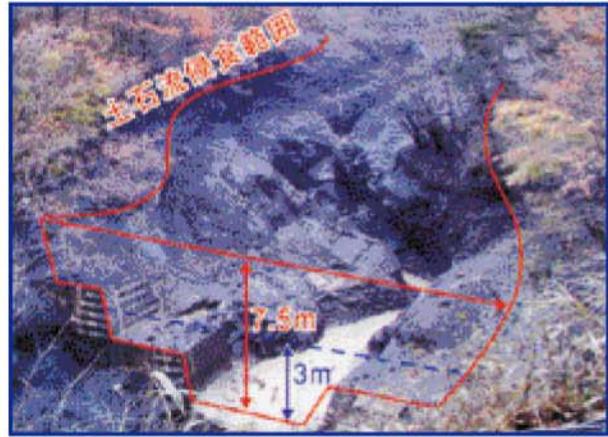
▲第7号床固工除石状況——最大1日あたり120台のダンプトラックがのべ500台運搬しました。

土石流の動態観測や調査か



▲写真-1 発生源(大沢崩れの谷底の土砂が流下しました)

1年前の平成12年11月21日の午前3時すぎに大沢川及び足取川支川竹沢川で土石流が発生しました。大沢川遊砂地で過去最大の約28万立方メートルの土砂が堆積し、下流の災害を未然に防ぎました。富士砂防で集中的かつ多角的に実施している土石流の現地観測によって、未解明な点が多い土石流の実態に関する海に至るまでの詳細なデータが多数得られています。



▲今回の土石流によって岩壙上流観測所での水位は7.5mに達しました。
【青点線=これまでの最高水位3m(1997年11月26日)】

土石流一覧表

発生年月日	降雨条件(大滝)	最大洪水流量(m³/s)	最大流速(m/s)	最高水位(m)	総流量($\times 10^3 m^3$)	扇状地での堆積土砂量($\times 10^3 m^3$)
平成3年11月28日	226	39	283	11.5	2.6	620
平成9年6月20日	321	63	199	9.6	2.6	450
平成9年11月26日	298	33	227	10.0	3.0	500
平成12年11月21日	260	37	1,423	15.9	5.7	405

大沢川土石流の特徴

メカニズム

主に大沢崩れの標高3,200～3,500m付近の側方斜面

が崩落、拡大し、崩壊土砂はすぐに下流へ流下せず、崩壊地の谷底に一旦堆積。その堆積物がある程度蓄積し、豪雨、スラッシュ雪崩により流水量が増加すると、土石流と化して流出するとみられる。土砂は峡谷域から岩壙部までの谷底を扇状地まで一気に流出する。

大規模・頻発

1回の土石流で扇状地に堆積する土砂量が数万～30万立方メートルと、非常に規模が大きく、最近10年間で4回と発生頻度が著しく高い。

巨礫・高速

土石流には直径2～4mの溶岩の巨礫とスコリアなど空隙が多く脆い土砂が多量に含まれる。流速は時速60キロメートルをこえ、大きなピーク流量で流下する。

晩春・初冬に発生

台風や梅雨期のいわゆる出水期以外の、初冬(11月末～12月初旬)、晩春(3月末～5月)に100mm～200mmの少量の降雨でもたびたび発生する。



▲礫径:2～2.5mの巨礫が流下速度:3.0m/sで流下。

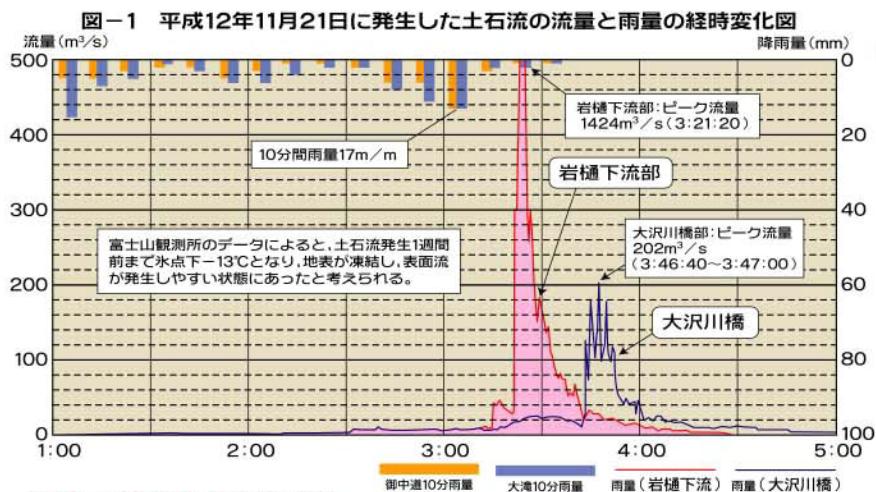
土石流調査・観測の手法

土石流の発生メカニズムを解明し、土石流に対しより効果的な施設計画や設計を行うため、さらに海域まで含めた総合的な土砂管理を検討するため、表-1のような多角的な調査をしています。特に流下中に実施したビデオ観測、採水粒度調査などから貴重な成果が得られました。

●表-1 H12.11.21土石流に関する観測・調査項目(○発生時実施)

区間	標高(m)	観測・調査			
		土砂量	土砂粒径	降雨・流出状況	流量(ハイドロ)
調査目的		水系一貫土砂収支/遊砂地の効果	土砂の質	土石流発生条件	○ハイドロ/遊砂地の効果
源頭域	3,740～2,350	空中写真計測	地山の粒度試験		痕跡調査/○地震計(気象庁)
峡谷域	2,350～1,500	現地計測(簡易横断)		○降雨観測(御中道)	痕跡調査
中流部	1,500～900	現地計測(簡易横断)		○降雨観測(大滝)	○VTR調査○水位計/痕跡調査
岩壙終端	900	現地計測(簡易横断)		○降雨観測(岩壙)	○VTR調査/痕跡調査○振動センサー○水位計/流速計
扇状地 (遊砂地・沈砂地)	900～575	横断測量	巨礫分布調査/堆積物の粒度試験	○降雨観測(上井出)	○VTR調査/痕跡調査
大沢川流路工	575～497	○採水濃度調査	○採水粒度試験/堆積物粒度試験		○VTR調査○水位計/痕跡調査
潤井川区間	497～107	○採水濃度調査	○採水粒度試験/堆積物粒度試験		
星山放水路	107	○採水濃度調査	○採水粒度試験		○分水地点の水位観測(県)
田子浦河口	0	○採水濃度調査	○採水粒度試験		

ら土石流の謎が明らかに!!



調査成果

●土石流発生降雨

土石流発生降雨は前線性の豪雨であり、20日午前2時頃から降り始め、小康状態の後21日午前1時から3時頃まで集中して降っている。大滝で連続雨量260mm、最大1時間雨量46mm(2:00~3:00)で、10分間最大雨量17mm(3:00~3:10)が土石流を引き起こしたとみられます。

●土石流の発生位置と流下状況

大滝崩れの8合目~9合目にあたる側方斜面から崩れ、大滝崩れの谷底及び崖錐斜面に堆積していた土砂が、最大10m洗掘され流出し、標高900mの岩壙終端まで一気に流下し、大沢扇状地に達した。大沢遊砂地・沈砂地で砂礫分は全て捕捉し、下流の被害は皆無でした。

●流下状況(VTR解析)

大滝(標高1,500m)、岩壙(900m)、大沢川橋(500m)の監視カメラにおいてVTRに収録し、これから流速・水位を読み取り流出量を計測した(図-1)。VTR画像が鮮明で最後まで収録できた岩壙下流では、3:21に突然段波が襲い、最大水位5.5m、流速16m/s、ピーク流量は、 $Q_{sp} = 1,423 \text{ m}^3/\text{s}$ である。また、峡谷域から大沢川流路工にいたる痕跡調査によるピーク流量の計算結果によれば、妥当と確認された。遊砂地・沈砂地を経て、5.5km下流の大沢川流路工・大沢橋におけるピーク流量は202m³/sであった。

●水系一貫した土砂の移動状況

計測上の精度や流下過程における土砂が碎けて細くなる現象もあり、全体的な把握が非常に難しいのですが、その一端が初めて明らかになりました。昨年の土石流では、源頭部で25.8万立方メートル流出した土砂は、岩壙に至るまでに15.8万立方メートルを侵食し、遊砂地で大きな粒径の土砂が捕捉され、下流に5.7万立方メートルが海域に流出したと推定されます。また、土石流の中に含まれる土砂の粒径構成の変化についても、データが得られました。

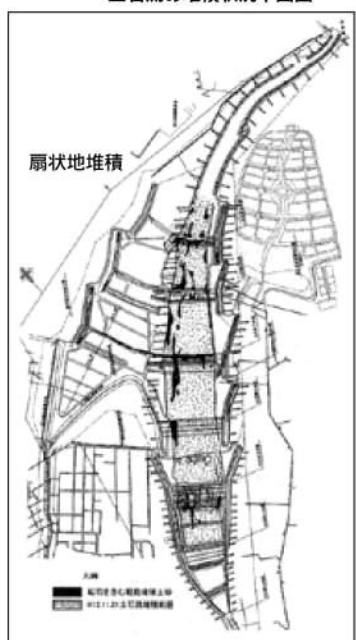
●砂防施設の効果

遊砂地及び沈砂地で約28万立方メートルの土砂を堆積させ、ピーク流量を1/7に低減させた効果はきわめて大きかった。さらに砂防施設が無い場合の効果をシミュレーションで検討しました。土石流の氾濫計算式において、条件をH12年11月及びH9年6月の土石流の詳細な実測データで、最も適合するモデルを構築し、施設が建設される以前の地形データを用いて被害状況を推定しました。

その結果、大沢川扇状地で氾濫し直接土石流が集落を襲った場合、約157haの区域で約3.6億円の被害額が生じたと推定されます。また、扇状地で局所先掘により生じた自然河道に一部の土砂が潤井川に流れ込んだ場合、潤井川本川の河床をあげ、洪水被害が約43haで約84.2億円にのぼると算出されます。

大沢川の砂防計画は、100年に1度の大出水時に、流出する土砂量は150万立方メートルとされ、今回流入した土石流の1/7にあたりますが、非常に大きな効果があったと考えられます。

図-2 大沢川遊砂地における土石流の堆積状況平面図



今後の砂防調査の展開

●砂防施設の効果

土石流発生時の現地観測は山奥で夜間等に短時間で突発するため困難が多く、H12年11月土石流も現在の観測・計測手法では精度が充分でなく、今後現地観測手法を改良・充実させ、より正確な土砂移動の量的・質的なデータの蓄積をはかります。

さらに、多角的・総合的に解析し、土石流の発生の予知や、より効果的な砂防対策の方策について検討します。

ここで役立っています、掘削土砂!!

富士山大沢川扇状地の堆積土砂は、道路・海岸・河川・土地開発等の公共施設の整備に利用することで事業の効率的執行を進めるとともに、国土の保全や地域の経済活動の誘発、生産性の向上にも役立っています。

除石土砂の主な搬出先（11月現在：計232,000m³／(46,400台)）

利用区分	公共工事名（工事機関）	搬入先	土石量(m ³)／(ダンプ台数)	実績効果
養浜材	富士海岸吉原地区養浜工事ほか (国土交通省 沼津工事事務所)	富士市沼田新田地区ほか	73,000m ³ ／(14,600台)	富士海岸の吉原地区(約4km)の海浜
	富士海岸富士地区養浜工事ほか (国土交通省 沼津工事事務所)	富士市五賀島地区ほか	10,000m ³ ／(2,000台)	侵食阻止をはかる。また、マリンプールの駐車場としても活用。
土地改良	半野ほ場整備事業 (白糸土地改良区)	富士宮市半野地区	31,000m ³ ／(6,200台)	担い手育成基盤事業として、水田の効率的活用を図るため、水田整理の基盤材として活用。
	女鹿塚ほ場整備事業 (静岡県東部農林事務所)	沼津市原女鹿塚地区	40,000m ³ ／(8,000台)	浮島と呼ばれた原地区的31haの生産性向上のため水田整理の基盤材として活用。
工業団地造成	北山工業団地造成 (静岡県企業局富士川事務所)	富士宮市北山地区	45,000m ³ ／(9,000台)	約12haの工業団地造成の盛土材
道路改良盛土材	主要地方道富士宮鳴沢線 (山梨県東部地域振興局)	上九一色村富士ヶ嶺地区	12,000m ³ ／(2,400台)	約300mの道路改良工事の路体の盛土材
	裾野市道1-2号線(裾野市役所)	裾野市茶畠地区	4,000m ³ ／(800台)	約240mの市道改良工事の路体の盛土材
施設整備基盤材	田子の浦改修事業中央地区岸壁改良工事 (静岡県田子の浦港管理事務所)	富士市中河原地区	8,000m ³ ／(1,600台)	112mの岸壁改良工事で、水深約10mまでの埋め戻し材として活用
	山宮最終処分場覆土工事 (富士宮市芝川町原生施設総合)	富士宮市山宮地区	3,000m ³ ／(600台)	約4,000m ² の焼却灰覆土材として活用
	上井出簡易水道事業上井出配水池造工事 (富士宮市役所)	富士宮市上井出地区	6,000m ³ ／(1,200台)	2,600人に給水する配水場造成(2,800m ²)の基盤材(平成15年4月給水開始予定)

●半野圃場整備事業



▲新たに整備された圃場

●北山工業団地造成



▲扇状地土砂で整備された状況

●県道改良工事



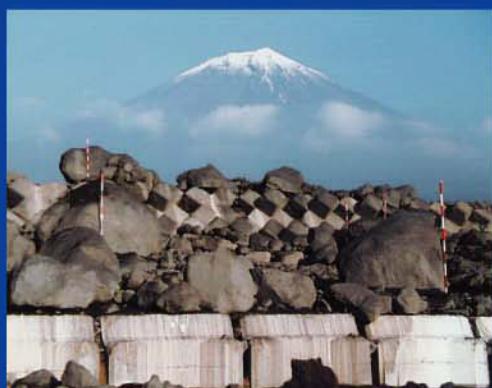
◀芝川町稻子地先

●田子の浦港岸壁整備工事

岸壁造成盛土施工中▶



なぜ除石が必要なのか!?



ふだんは全く水が流れていらない大沢川扇状地では、遊砂地に堆積した土砂等は自然に流下することが出来ません。

このまま遊砂地が満砂の状況だと、次の土石流が来たとき土砂を溜めるスペースが少くなり、さらに、たまっていた土砂も一緒にになって、下流に流出して被害を及ぼす恐れがあります。

このため、大きな土石流後は溜まった土砂を緊急に取り除く必要があるのです。

台風直後の遊砂地を130名で5km踏破!

富士山大沢川扇状地に建設中の幅1.5kmにおよぶ大沢川遊砂地を徒步でめぐりながら、砂防や富士山の自然に関するクイズを解きつつ、土石流の実態についての理解を深めてもらおうと行われました。台風11号の影響でコースが流されたりしたため、一部コースを変更して開催することになりましたが、遠くは千葉県をはじめ県内外から夏休み中の親子づれなど約130人が参加して行されました。

土石流を実体験すると共に、クイズや水理模型実験などのアトラクションを通じ、砂防事業への理解を深めました。



▲H12.11.21の土石流をVTRなどで説明



▲広大な扇状地を歩く参加者たち



▼キャンプ砂防生の水理模型実験



②



▲植樹が簡単——リサイクルポット



▲距離を測る双眼鏡で計測



▲扇状地の大きさを実感 ボール投げフリスビー

▲降雨体験車による降雨体験
(多治見工事事務所協力)▲皆さんに人気のペットボトルロケット
(日本ペットボトルクラフト協会)

8月20日～29日開催

キャンプ砂防2001 in 富士山

砂防の意義と中山間地域の実態と役割を体験的に学ぶ、「キャンプ砂防 2001 in 富士山」に全国から砂防を専攻する大学生5名の学生が参加しました。

8月20日からの10日間、砂防施設見学、渓流調査教室、森林教室（植地林の下草狩り）、クイズウォークのスタッフ、火山洞窟講座、酪農体験、大沢川源頭部調査工事見学、富士山南西野渓上流（お中道）調査等、密度の高い合宿生活を過ごしました。



▲富士山自然の森づくり（NPO）の仁藤事務局長から下草狩りの手ほどきを受けている

●実施日程

20日(月)	開講式・オリエンテーション 所長講話「富士山の砂防事業について」
21日(火)	台風11号接近、豪雨の中 砂防施設の見学①② (大沢扇状地沈砂地・岩壠) リサイクルボットの組立・移植 渓流調査教室：講義 (武藏流域研究所 小菅氏)
22日(水)	渓流調査教室：現地調査及び資料とりまとめ (小菅氏より現地で渓流調査を教わる)
23日(木)	大沢扇状地クイズウォーク（スタッフとして参加）
24日(金)	森林教室（植生林の下草狩り）③ (講師：富士山自然の森づくり 仁藤事務局長) 火山洞窟講座（富士風穴にて火山洞窟形成過程等学ぶ）④ (講師：ホールアース自然学校 下本氏・中澤氏) 酪農体験 ホームステイ
25日(土)	酪農体験
26日(日)	酪農体験
27日(月)	環境省生物多様性センター見学 大沢崩れとフジアザミ植生調査現場 お助け小屋 泊⑤
28日(火)	富士山南西野渓上流域調査⑥－お中道を踏査 研修成果発表会
29日(水)	閉講式



▲大沢川流路工で探水調査



▲砂防施設の見学 岩壠下流土石流観測橋にて

▼火山洞窟講座で富士風穴の氷穴を調査中



▲お助け小屋で自炊、寝袋では寒かった。 南西野渓現地踏査「天の浮橋」の難所を▲

キャンプ砂防に参加しての感想

僕は、砂防について何も知らないまま、このキャンプ砂防に参加しました。知識不足のため理解できない話があり残念でした。逆に一つ一つが初めて新鮮に感じました。仕事のほんの一部しか見ていませんが、これから進路を決めていくうての重要な参考になるのではないかと思います。再びキャンプ砂防に参加し、聞くだけではなく他の人達と意見を交わせるように成長していきたい。（鶴水忠宏さん）

自然を守るとか環境保護などに关心のある僕は、その批判対象のような砂防などの土木工事のことも勉強すべきだと考えました。

砂防と自然保護とは決して対極のことではなく、互いに密接な関係を持っていること、どちらかだけではなく幅広い考え方を持つべきだと改めて感じました。（伊藤拓弥さん）

三浦雄一郎さんと 富士山御中道を歩く



三浦雄一郎さんのコメント

■数年前に富士山から下山途中、道を間違えて須走の方に迷い込み、お中道をさぐりあて、佐藤小屋にたどりついた。中世から続いている道をたどったことに奇妙なつかしさを感じた。お中道は私のようなちよつと山好きにとっても「幻の山道」ができるなら一度はお中道回りをやってみたいと思っていた。

■「お中道ぐるっと360度」計画を花岡所長さんから聞いたとき、本当に一周できるのかと信じがたい思ひだつた。さらにカナダからパトリック・モローや山伏修行中の外人、東大火山研究者やジャーナリストなどの多彩な研究者、専門家の皆さんとご一緒できるという。

■台風で一般的の参加は残念ながら中止になったが、中世からの修験道を台風が通り過ぎた、秋の紅葉のお中道の二日間、工事現場の地域復興作業の苦心ぶりも目の当たりにして、素晴らしい体験ができました。

■以来、仲間達に「本当にできるの!」と信しがたく聞かれる。夢か幻のような現代の不思議体験でした。

2003年、70歳でエベレスト登頂を目指す
三浦さん。がんばってください!!

富士山御中道を歩く

9月11日から予定されていた「富士山お中道ぐるっと360度」は台風15号のため公式行事は中止となりましたが、台風通過後、半日遅れで冒険スキーヤー・三浦雄一郎さんや外国人登山家など富士宮山岳会の強力支援のもと有志十数人により踏破しました。第一日目は富士宮口5合目から、昨年土石流発生時に荒れた大沢川を横断し、奥庭へ。翌日は台風一過の快晴のなか、南北アルプスを望みながら、富士吉田口登山道から須走胎内窟をへて、一周踏破しました。



▲宝永山頂より宝永火口をバックに

大沢崩れと御中道見学会

第1回

7月26日



▲滑沢にて

第2回

8月29日



▲お助け小屋にて

第4回

10月19日



▲滑沢にて

大沢崩れ▶

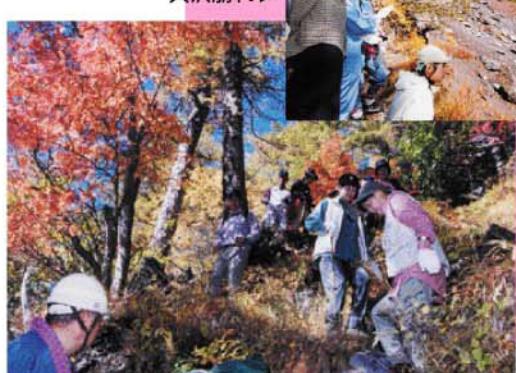


第3回 9月26日



▲滑沢にて

▲滑沢にて



▲お助け小屋から見晴台へ

富士山を見て学び、体で感じる。

大学職員

常葉学園教職員 大沢崩れ・扇状地体験研修



▲大沢扇状地班

重川希志依
助教授の
感想

フジアザミの名前を聞いたことはありました。実際に見て触るのは初めて。見かけはあまり強そうに見えないのにしっかり根を張り、地面を安定させる力にビックリしました。

教職員夏期研修会「富士山三昧（ざんまい）」が8月6日・7日で富士常葉大学を中心に行われ、屋外体験研修では、大沢扇状地施設と大沢崩れ踏査の2グループが訪れました。扇状地班は、フジアザミの説明を受けたあと圃場で育苗した苗をプランターへ移植する作業にも取り組みました。

翌、7日に行われたシンポジウム「富士山を世界遺産にしよう」では、花岡所長が「富士山麓の地域と自然を保全する一富士砂防の30年と新たな展開」と題し、登山家野口健氏とともに約600人に基調講演を行いました。



▲砂防施設見学班 フジアザミ移植

大学生

東京農業大学学生が大沢崩れ見学



◀源頭部の調査工事現場までおりて視察（9月20日）

東京農業大学 治水緑化工学研究室 福永健司講師、長佐智子幹事ほか、26名が学生実習として富士砂防管内に来訪され、御中道を源頭部調査工事現場まで踏査し、大沢崩れとヘリコプター資材運搬を見学しました。

高校生

富士宮西高 富士山研究学習を開始



▲スライドとビデオを駆使した講義（9月13日）



▲リサイクルボットで植樹をする生徒たち（9月20日）

県立富士宮西高校では、富士山研究の学習として、富士山の地質、民族、植生、砂防の学習を実施しています。富士宮山岳会副会長でもある工藤誠志教諭から、富士山大沢崩れと砂防対策について、出前講師の依頼があり、花岡所長が講演し、現場見学と植栽体験を実施しました。

富士宮市内小中学校で取り組んでいる富士山学習には従来から積極的に協力していますが、高校としては初めての受け入れとなりました。

総合学習の活動が富士市へ、高校へと広がりを!

小学生

富士市立伝法小学校 大沢扇状地 体験見学会



▲今春まいたフジアザミの発芽を見学

参加者の感想

大沢崩れに行ってみたら、教室と同じくらいの岩があつたのでびっくりしました。

総合学習が富士市へも広がりを見せ、伝法小学校の3年生の生徒さん(121名)が、10月4日に、吉原第二中学校2年生の生徒さん(28名)が11月30日に、それぞれ総合学習の一環として大沢扇状地を訪れ、「体験学習「潤井川上流を体験しよう」」を実施。土石流対策施設やフジアザミの圃場の見学、どんぐり拾いとリサイクルポットへの種植えなどを行いました。



▲拾ったどんぐりをリサイクルポットに種まき

中学生

富士市立吉原第二中学校 大沢扇状地で総合学習

●現地見学会及び成育調査成果を11月17日の「大沢・潤井川サミット」で発表しました。

7月13日

リサイクルポットによる植樹活動



富士砂防工事事務所の花岡所長さんから、大沢崩れと砂防工事についての説明を聞きました。

質問に答える、自分の考えや意見を発表しました。

11月9日

リサイクルポットの生育状況の調査



コンベックスで樹高を測定する。

デジタルノギスで、根本の直径を測る。

※発表会スライドより

●小・中・高校の「総合的な学習の時間」に事務所が協力した内容(のべ16校 769人)

日付	学校名	学年・人数	担当教諭	実施内容
4月19日	富士宮市立西富士中学校	全校生・190人	渡邊利治 教諭	大沢川扇状地の砂防施設上流まで歩き、土石流VTRをふくめた説明を職員から受け、昨年の土石流の生々しい遊砂地を体験。
4月26日	富士宮市立貴船小学校	5年生・30人	相模たか子 教諭	富士砂防事務所で土石流対策と業務の説明。
5月23日	富士宮市立黒田小学校	4年生・127人	野間紀利子 教諭	朝霧野外活動センターで富士山の土石流対策の講義と大沢川扇状地の施設見学をした。
5月25日	富士市立大富士小学校	5年生・47人	渡井祐子 教諭	大沢川扇状地で、砂防施設見学とアザミ植栽。
6月26日	富士市立大富士小学校	1年生～6年生・29人	佐野知美 教諭	事務所で土石流対策業務を調べて学習。
7月23日	富士宮市立黒田小学校	4年生・25人	野間紀利子 教諭	事務所で土石流対策の業務を調べて学習。大沢川扇状地の砂防施設を見学。
8月 7日	静岡県東部地区的中学生	1年生～3年生・10人	東部教育事務所	事務所で土石流対策の講義。大沢川扇状地で砂防施設見学とアザミ苗移植作業。
9月13日	静岡県立富士宮西高校	1年生・60人	工藤誠志 教諭	富士宮西高で富士山大沢崩れと土石流対策の講義、後日、現地見学を実施。
10月 4日	富士市立伝法小学校	3年生・121人	佐野秀子 教諭	大沢川扇状地の砂防施設見学とフジアザミ、リサイクルポット体験。
10月10日	富士宮市立中学校教員	社会科教員・72人	榎原正彦 校長	学校で富士地区の社会科教員に富士山大沢崩れ対策について講義。
10月18日	富士市立岳陽中学校	3年生・7人	渡邊豊 教諭	事務所で土石流対策業務について調べて学習。
11月 2日	富士宮市立北山中学校	3年生・3人	近藤勝彦 教諭	富士砂防事務所で土石流対策業務について調べて学習。
11月17日	富士市・富士宮市内4中学校	3年生・20人 校長先生ら15名	榎原正彦 校長	大沢川、潤井川に関する研究発表会。富士砂防から助言・講評。
11月30日	富士市立吉原第二中学校	2年生・28人	一杉茂樹 教諭	大沢川扇状地で、砂防施設見学、リサイクルポット苗の計測作業。

9月21日 富士山源頭部調査工事現場 合同パトロール

富士山源頭部調査工事の現場を富士砂防工事事務所と静岡森林管理署の工事を施工している現場代理人、発注側の職員とで安全パトロールを行う。

標高
二千二百メートルの
工事現場!!

工事現場内の作業員の安全確保を図ることを目的にして、工事安全パトロールを毎月実施しています。今回は9月に実施した森林管理署との「合同パトロール」を紹介しましょう。



平成8年の長野県の姫川水系・蒲原沢の土石流では多くの作業員が犠牲となりました。この様な事故を再び繰り返さないため、同じ流域における作業現場の情報伝達体制の確立が急務となっています。

大沢川でも、森林管理署の治山工事と、富士砂防の砂防工事を上流下流で実施しています。作業員の安全を確保するために、両者で「富士山大沢川等工事関係者連絡会議」を設け、降雨量・流量などの気象情報を相互に共有しています。さらに土石流が予測される時は緊急避難情報を沢沿いの上流現場から下流へ速やかに連絡しあい、また定期的に合同で安全点検を実施しています。

今回は、大沢川を中心に竹本静岡森林管理署長、花岡所長をはじめ総勢30名で、標高2,200メートルの富士山源頭部調査工事(富士砂防)そして、標高1,400メートルの大沢川床固工事(森林管理署)の、土石流・落石の監視・通報・避難体制の確保など、安全対策を現地で確認しました。

あわせて土石流の発生源の大沢崩れや渓流の状況、特に、平成12年11月に発生した土石流の痕跡・荒廃状況を調査し、延べ約7キロメートルを踏査しました。天候が急変し最後は豪雨にみまわれましたが、巨石の飛散状況を目の当たりにし、自然の脅威を認識し、治山、そして砂防現場の安全対策の充実を語り合い、帰途、バス車中の反省会でも論議を深め、有意義な一日でした。

これからも、地域防災事業に係わる両者が連携し、工事を安全に無事故で完成を迎える様、このパトロールなどを通じて安全対策の充実を図って行きます。



▲標高2,200mの現場内で安全点検と現地での討論

■合同安全パトロール参加者

- 富士砂防工事事務所／花岡事務所長、山田副所長、岩間監督官 他3名
- 静岡森林管理署／竹本署長 菅野治山課長
- 施工業者／井上建設(株)、(株)保坂組、富嶽経常建設、
大旺建設、西富士経常建設、(株)早野組
(株)川俣組、(株)木村組 8社10名

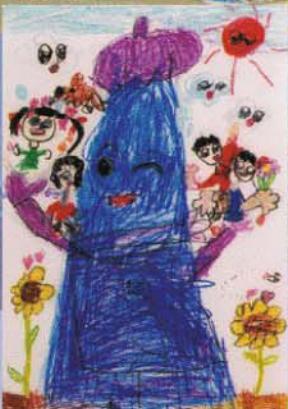
第6回 富士山への手紙・絵コンクール

最終審査会で受賞作品決まる!



最優秀賞作品

●富士山への絵



▲幼児の部 廣橋 奈央子さん



▲小学生低学年の部 磯野 麻友さん



▲小学生高学年の部 大石 有紀さん



▲中学生の部 角田 充さん



▲高校生・成人の部 上野 都志江さん

●富士山への手紙

ぼくは、おねがいしたことがあります。それは、ぼくの小さいかわいい友だちのふかみかんざくんのおかあさんのびょうきがなおりますようになって、でもかなわなかつたよ。おほしさになってしまったよ。ふじさんがだいすきでおやすみのたびにふじ山にあるゆうえんちであそんだりしたんだよ。ゆきがいっぱいふつたときゆきがせんもしたんだよ。二さいのかんざくんは、おかあさんにあえなくなってきたみたいだうけれどよいこにしているんだよ。テレビでふじ山ができる「にいにい。」とぼくのことおもいだしてくれるんだよ。もう一度おねがいしてもいい? かんざくんがさみしくないように見まもって! 大きくなったらのぼるから、おねがいします。

▲小学生低学年の部 中村 徳亜さん

わたしの富士山へ

富士山を手のひらにのせてみた。わたしのいつも見ている富士山は両手をさし出すとわたしの手の上にちょこんとのる。これはわたしだけの富士山、わたしだけのもの。

夏の夜、まどからふじ山を見てみるとゆらゆらゆれる明かりが見える。一列になって登っていく。そっと手のひらに富士山をのせるとみんなはわたしの手の中を頂上めがけて登っていく。

今年の夏、おばあちゃんが頭の手じゅつをした日、いつも富士山を見る土手へ行った。でもこの日だけは富士山を手のひらにのせなかった。そのかわりにそっと富士山に手を合わせた。富士山、わたしのお願いをきいてくれてありがとう。

▲小学生高学年の部 望月 真紀子さん

初めて眼鏡を買った。鏡の前でニッと笑ってみた。かわいくないと思った。似合っていないと思った。バスにますますみえた。

眼鏡をかけて、外に出た。富士山を見た。いつも見ている富士山と違うようにみえた。山肌がはっきりみえた。白いドームもはっきりみえた。

二年前に初めて登った事を思い出した。岩だらけで、上に行くほどに息が苦しくて辛く、長い道のりだった事を。

御殿場に行つた。富士宮から見ている富士山とは違った。宝永山の位置が違う。大沢くずれの位置も違う。いつも見ている富士山ではなかった。全く別の山のように見えた。富士山はこんなに角度によっては違うということを再確認した。富士宮からの富士山が一番美しく見えると思った。けれど、御殿場で見た富士山もハッとする発見があった。山人もいろんな角度から見なくては全体の姿がわからないと思った。

眼鏡をかけてまたニッと笑ってみせた。さっきのわたしはすっとかわいくみえた。部屋の窓から見たあなたは、りりしく私の眼鏡にもなりました。

▲中学生の部 山中 智美さん

高校二年のとき死に臨む母さんが「アイタイ…」と呟くの耳にしました。悪く想像して母さんを恨みました。そして何も知らず母さんを看護する父に同情しました。

高卒後、就職しました。母さんの三回忌の前に家内を整理しました。押入に手文庫を見つけました。それには自身の母さんが父と交した手紙が収められていました。見てはいけぬと思いつながらつい見てしまいました。山を通じて愛を育んだ母さんと父。山頂のブロボーズ。山頂に親子で立とうと誓つての指切りなど。大変感動しました。また死に臨む母さんの呟きは「立ちたい…」と理解しました。母さん、誤解していました。ご免なさい。

三回忌のあと父に案内されて山頂に立ちました。もちろん母さんの遺影と一緒に。

母さん、懐かしい富士の山頂に立つ私たちを天神からご覧になりましたか。

▲高校生・成人の部 小林 友紀さん

「富士山立体地図」製作

15万分の1の富士山麓一帯の立体地形と土地利用、そして過去2000年間の噴火活動実績マップから火山災害を総合的に把握するためのものです。

■静岡大学 小山真人教授のコメント

●火山噴火が山麓の地形に及ぼした影響を容易に実感できる。(たとえば青木ヶ原溶岩と本栖湖、西湖など)

●地形と溶岩の流れる方向の関係が一目瞭然である。

●普通の山地の地形と火山の地形の比較、火山がまわりに広大で平坦な土地をつくり出し、人間がいかに利用しているかがわかる。

●見た目に美しく、壁に貼ったり、置いて飾ったりするのにも最適。

青木玉さんの新刊に 「富士砂防」登場!!

平成11年11月富士砂防30周年記念行事で基調講演をいたたいた作家、青木玉先生の新刊「上り坂 下り坂」が出版されました。平成10年から13年に執筆された隨筆をまとめられたのですが、なんと「富士砂防」という小編があります!! 是非、ご一読ください。



青木玉著「上り坂 下り坂」
出版元:講談社
定価:1,500円

速報!
第3回

富士山火山防災シンポジウム

テーマ(仮)「宝永噴火の実態と災害に学ぶ」

富士山の火山ハザードマップ検討が進められている今、富士山の最も新しく、かつ最大級の噴火である宝永噴火の実態と、それがもたらした災害の研究が進められています。富士山の火山防災上、重要な事例である宝永噴火にスポットをあて、最新の知見から火山災害に備えた街づくり、人づくりを考えます。

■会場:静岡県御殿場市 市民会館 大ホール(御殿場市萩原357-1)

■主催:国土交通省 中部地方整備局 富士砂防工事事務所
山梨県/静岡県/御殿場市

■共催:神奈川県(予定)

平成14年2月22日(金)開催!

AM10:00~PM14:45

入場無料!

第1部 基調講演

①小山真人 静岡大学教育学部自然科学教室教授(火山学)

②松尾美恵子 学習院女子大学国際文化交流学部
日本文化学科教授(日本近世史) (予定)

第2部 シンポジウム

コーディネーター:山崎 登 NHK解説委員

パネリスト:小山真人 教授

松尾美恵子 教授

御殿場市長など行政担当者、火山観測・砂防の専門家 他

(予定)

▲宝永火口



村松友視 審査委員長

●プロフィール —

幼少期から静岡高校卒業まで静岡県清水市に在住。慶應義塾大学文学部哲学科卒。後に中央公論社に入社。編集に携わる傍ら小説を書きはじめる。現在は東京都武蔵野市に在住。

第6回 富士山への手紙・絵コンクール

表彰式のお知らせ

●とき:平成13年12月9日(日)
午後1時30分~3時30分

●ところ:富士宮市民文化会館
大ホール

■主催者:富士宮市・富士宮市教育委員会
国土交通省富士砂防工事事務所
(社)富士宮青年会議所

プログラム

● 13:00 開場

● 13:30 開式

主催者あいさつ 渡辺 紀 富士宮市長

●表彰

手紙部門
絵部門

●総評

村松友視 審査委員長

●対談

「絵の立場から見た富士山、文の立場から見た富士山を語る」

対談者:村松友視 審査委員長(作家)

橋本明雄 副委員長

(富士宮美術協会会长)

● 15:30 閉式

●展示:富士宮市民文化会館(展示室)/平成13年12月5日(水)~9日(日)

情報提供のお願い

富士砂防が関係する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験された方の情報提供をお願いいたします。

〈連絡先〉

富士砂防工事事務所

担当/建設専門官・茶山、または調査課長・小泉まで

TEL.0544-27-5221 (内線516,351)

〈お問い合わせ先〉

■国土交通省富士砂防工事事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100

TEL.0544-27-5221

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

■富士宮砂防出張所

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出826-1

TEL.0544-54-0236

FUJI SABO

MINISTRY OF LAND,
INFRASTRUCTURE AND
TRANSPORT

